

S-MPF®とAIが拓く次世代リキッドバイオプシー

～C-TACクラスターのデジタル画像解析と客観的形態異型度スコアリング～

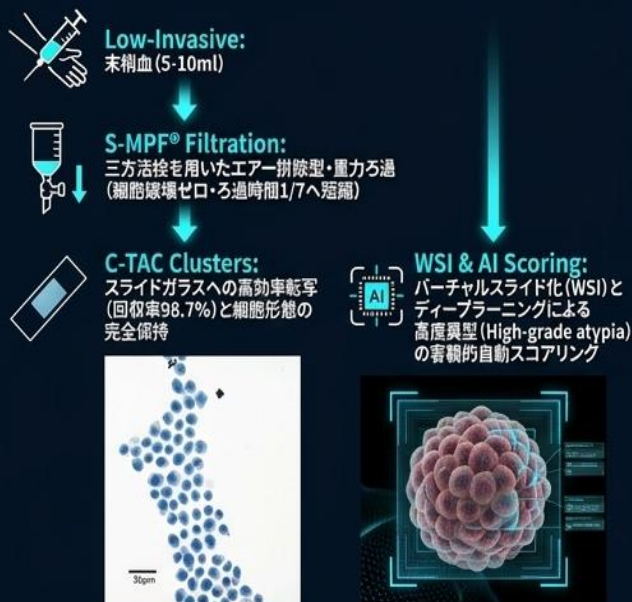
「形態学」と「深層学習」の融合が、肺癌周術期の微小残存病変(MRD)評価と個別化医療の新たな標準(スタンダード)を創る。

【開催概要】

日 時: 2026年7月21日(火) 17:45 - 18:45

対 象: 呼吸器外科医、呼吸器内科医、腫瘍内科医、病理専門医、細胞検査士、臨床検査技師、その他がん個別化医療に関心のある医療従事者および研究者

革新的なワークフロー



【事前学習VIDEO】

<https://youtu.be/w12yo99IngU>



【演者紹介】



澤端 章好 先生 (M.D., Ph.D.)
川崎医科大学総合医療センター 副院長・呼吸器科部長
奈良県立医科大学 麻酔科手術室
S-MPF®を用いたC-TAC/ETC形態解析の
パイオニア。共有データの場から「Biological
R1 (生知能の増進)」の可視化に臨床応用
医療の発展を目指す。

【プログラム】

17:45 - 17:55

- 導入 リキッドバイオプシーのパラダイムシフト: 単一細胞から循環腫瘍微小環境(CTME)へ

17:55 - 18:15

- 基調講演 S-MPF細胞診が捉えるC-TACクラスターの生物学と「高度異型(High-grade atypia)」の臨床的意義

18:15 - 18:35

- 特別報告 形態学とAIの融合: 客観的スコアリングシステムの構築と臨床実装へのロードマップ

18:35 - 18:45

- Q & A ライブ質疑応答セッション

形 式: TEMSウェビナー (オンラインライブ配信)

参加費: 無料 (事前登録制)

【本ウェビナーの3つの見どころ】

- 限界突破のS-MPF®技術:** EpCAM依存の従来法が見逃していた「転移の実行部隊 (EMT細胞・内皮様細胞)」を、クラスター構造を保ったまま捕捉する重力ろ過細胞診の実力。
- 「主観」から「客観」へのAI進化:** 施設間・観覧者間の判定のばらつきを排除する、デジタル病理画像 (WSI) とAIを用いた客観的な「形態異型度スコアリングシステム」の開発秘話。
- Precision Oncologyの最前線:** C-TACの形態学を、術後補助化学療法 (ACT) の適応決定や再発リスクの早期モニタリングにどう直結させるか、最新の臨床データを公開。

【参加登録】

獨協医科大学埼玉医療センター 呼吸器外科 講師 C-TAC研究ワーキンググループ 幹事
西平 守道 mnishi@dokkyomed.ac.jp までメールで申し込みください

主催: C-TAC研究ワーキンググループ

(代表: 獨協医科大学埼玉医療センター 呼吸器外科学講座 教授 小林 哲)

技術協力: 株式会社池田理化 / 東レ株式会社